

エリアウェーブ

峡東教育事務所
地域教育支援スタッフ
 TEL 0553-20-2731
 FAX 0553-20-2733

◎回覧・配付をお願いします。増し刷り配付はご自由どうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

◎ご意見・ご感想、情報提供はこちらまで。 Email: hirayama-atxj@pref.yamanashi.lg.jp

「 受け継ぐ 」

1月は祝日や伝統行事が多い月です。
 1日は、元日、初詣、おせち料理、雑煮
 7日は七草がゆ、どんやっせ、きっかんじ
 11日は鏡開き
 14日はどんど焼き
 第2月曜日は成人の日・・・

正月というと初詣、新年会、子どもたちはお年玉・・・親戚中集まったのにぎやかな正月風景が浮かびます。

今は、1日から営業している大型店や飲食店もあり、暮れに食材を大量に買い込むこともなく、初売りに1日から出かける人たち(家庭)も多くなり、日本の正月も変わってきたなあと感じます。

「どんやっせ」に小学生の娘と参加しました。これは地域に伝わる子どもクラブの行事です。

子どもたちは自分で作った燈籠を手に、寒い中元氣いっぱい「ど〜んやっせ、どんやっせ、お祝い申せ〜」という掛け声を上げながら、太鼓を叩き各地域の家々を訪ね歩きます。

「家内安全 商売繁盛 大繁盛」と祈った後、用意した道祖神のお札を渡します。訪ねられた家では、お祝いのお金やミカンを渡します。

子どもたちの掛け声と太鼓の音が、その家に無病息災の効果を与えていると言われています。

また、この日にお正月飾りを外すことになっていて、外したお正月飾りは、14日の「どんど焼き」で焼きます。

「どんど焼き」では、地域ごとに薪を焚き、その中に習字の紙やお正月飾りを焼くことになっています。

習字紙の火の粉が高く上がると字がうまくなるという言い伝えがあります。

またこの時、各家々では針がねにさしたおだんご(繭玉)を持って行きます。これを薪で焼き、食べるのもこの辺りの習わしです。風邪をひかないとか虫歯にならないとか言い伝えられています。

今では、子どもが減り、大人がまわっている地区ややめてしまったという地区の話聞いて寂しく思いました。

この子どもクラブの行事も地域によって少しずつ違うようです。

「どんやっせ」の掛け声やお払いも言葉を娘が友だちに聞いてきたところ「家内安 商売繁盛 お金どっさり」「ど〜んやっせ どんやっせ おいわい もうせどんやっせ 家内安全どんやっせ 商売繁盛どんやっせ」など・・・。

日本に伝わる子守歌や仕事歌などは口伝えにいろいろな地域に広まり、少しずつ変化していったと言われています。こんなに近い地域なのに違って伝わっているって、おもしろいと思いませんか?そう思うと、私たちが子どもたちにきちんと伝えていかなければ途絶えてしまうのだと、実感しました。

いろいろなことが簡素化され、こういった行事に取り組む機会も少なくなってきました。家族そろって、地域のみんなで何かをするって素晴らしいことだと思います。

日本人として大切にされてきた風習を子どもや孫へずっと繋げていくには、私たち自身ももっと地域と関わっていく必要があると感じました。

* * * * 第48回 笛吹市義務教育振興会議 * * * *

12月1日、笛吹市八代総合会館において、笛吹市義務教育振興会議が開催されました。「合わせよう顔と顔 つなげよう心と心」～子どもたちの生活習慣を改善する実践を通して～をテーマに会場には「保育士・幼稚園教諭・小・中学校の教諭」「PTA」「教育行政」の教育関係三者が集いました。

今年度は(1)気持ちのよいあいさつをしよう (2)人の話をしっかり聞こう (3)正しい言葉遣いをしよう (4)早寝・早起きをしよう (5)通信機器の使い方にルールを作ろう を柱として、学校・家庭・教育行政が連携をしながら子どもたちの生活習慣の改善に取り組んでいます。

基調報告の後、「具体的な行動に移すためには」「よりよい取組を目指して」意見交換が行われました。

「子どもたちの状況を見極める」「大人が手本になるように変わる」「全員参加のPTAを目指す」「親子で参加する」「声をかけていく」などたくさんの意見交換がされ、笛吹の子どもたちのためにみんなで進めていく「第一歩」を明確にしました。



パネリストの筒井笛吹市教育委員会指導主事(左)、遠藤石和西小PTA会長(中央)、宮本教育協議会教育文化部長(右)



コーディネーターの丸山笛吹市教育委員会生涯学習課青少年育成カウンセラー



フロアを交えたディスカッションの様子

◆◆◆ 障がい者地域交流事業 餅つき・抽選会 ◆◆◆

笛吹市社協障がい者地域活動支援センターⅢ型「八代育美会」において、「障がい者地域交流事業」が12月26日に開催されました。

この事業は、八代育美会などに通所している障がい者や八代身体障害者福祉会のみなさんと、小学生や地域の方々、笛吹市社会福祉協議会と八和会(八代町在住現職退職教職員の会)との共催で行われました。



当日は八代小学生が約120名参加し、にぎやかな餅つきや抽選会が行われました。

寒い日でしたが、八代地区の子どもたちが楽しみながら、地域の方々との交流ができ、お腹も心も満たされた一日でした。



(よいしょ !おもたーい)

〈 きなこの餅がおいしいなあ 〉

◇◇◇ ふれあい訪問 塩山カトリック幼稚園 ◇◇◇

12月19日、在宅介護サービス「ハートフル塩山」において、塩山カトリック幼稚園児が「ふれあい訪問」をし、利用者のお年寄りとの交流会をしました。

園児は、手話をしながら「ぼくらはみんな生きている」を披露したり、お年寄りと一緒に「大きな栗の木の下で」を替え歌にして楽しみました。



手作りのペンダントを首にかけてもらうお年寄りの中には、感激して思わず涙ぐむ方もいて、心温まるふれあい訪問となりました。



〈 手一のひらを太陽に〜♪ 〉

「いつまでも元気でね」

地産地消 ダイコン栽培 勝沼中学校



ダイコンを育てた土は、現3年生が2年生の秋に校庭に落ちた落ち葉を腐葉土にしたもの。植えた種は昨年採ったもの。上級生から下級生へ育てて食べる。勝沼中ならではのサイクルです。

食育の取り組みの中で地産地消という言葉があります。勝沼中学校では、12月8日、2年生の技術・家庭科の生物育成の授業で栽培したダイコンを収穫しました。

1学期は、地球環境を考えゴーヤで緑のカーテンに挑戦。そしてゴーヤは野菜チップスに・・・今回は、ゴーヤを育てた花壇の土を使えること、比較的簡単にできたくさん芽が出て、間引きなどの管理作業ができる野菜ということでダイコンを選んだそうです。

2年生は、固くなった花壇の土をスコップで耕し、種から収穫するまで自分たちの手で大切に育てました。

収穫したダイコンは、大きいもの曲がったものとバラバラで「花壇の土を奥深くまで耕すとまっすぐなダイコンができる。固いと成長しない」と

担当の武井先生が話してくれました。生徒たちは、こういったことを実際に体験することで学びました。

給食室に運ばれたダイコンは「お願いします」「おいしくできるよ」という調理員さんとの約束通り、翌日愛情たっぷりのおでんとして生まれかわりました。地産地消、身近に取り組むことができました。



〈立派な大根ゲット!!〉



〈おいしく調理して下さい〉



〈給食メニューはもちろんおでん〉



親子しめ飾り教室

in 山梨市立日川小学校

12月15日(土)、山梨市立日川小学校で、「親子しめ飾り教室」が行われました。

東山梨社会教育の会主催で行われ、17組18人の親子が参加し、しめ飾りの由来を学習した後、親子で協力しながらしめ飾り作りに挑戦しました。

参加者からは「なわを編むところが難しかったけど、楽しかったです。またやりたいです。」「またやりたいです。」「(子)「しめ縄は買うものと思っていたので、自分たちの手で作ることができたことに驚きました。」「(母)という感想がありました。

参加者は、わらを揃えたり、ねじったり、編んだり、一つのことを親子で一緒に体験でき有意義な時間を過ごしていました。



〈しめ縄の由来の説明〉



〈作り方の説明〉



〈完成したしめ飾りと一緒に!〉

平成25年度「山梨ことぶき勸学院」学生募集

山梨県教育委員会は、下記の内容で平成25年度山梨ことぶき勸学院の学生を募集いたします。新たな高齢者のスタイルを創造するために、「生きがいの創出」「新たな縁・絆の構築」「地域の活性化に貢献できる人材の育成」「健康増進」の実現を目指します。



グラウンドゴルフの様子

- 1 募集人員 峡東教室（50名）
- 2 入学資格 おおむね60歳以上の方
- 3 授業日 月2回。主に火曜日ですが、変更になることもあります。
- 4 学習場所 甲府拠点は県立文学館、地域教室→東山梨合同庁舎
- 5 基本学習費 16,000円

交通費・教材費・クラブ活動費等は自己負担

- 6 出願期間
平成25年2月1日（金）～3月8日（金）

- 7 出願場所・問い合わせ

東山梨合同庁舎内 峡東教育事務所

甲州市塩山上塩後1239-1

TEL 0553-20-2731

担当（益田・石川）

*募集要項は、各公共機関・社会教育施設にあります

《 学習内容 》

★ 必修講座

① 拠点講座（12回）

- ・有識者からの講義
- ・県内文化施設訪問
- ・ネット講座

② 地域講座（7回）

- ★ ふれあい行事（3回）
- ★ 選択講座

「親として大切なこと」

松下幸之助著

PHP 総合研究者・編より

すべての子どもが学校での優等生になることはできません。けれども、「人間としての優等生」にはなれます。何よりそれが、尊いことです。

幼いときからキチンとしたしつけを受けて育った人は、動作が違います。しつけは窮屈にせず、自然なかたちを心がけることが大切です。

学問があるのは大いに結構ですが、なくても気にすることはありません。学問がなくても、生きる道は必ずあるからです。

「ああ、よしよし」より、「できることは自分でしなさい」と教える。そこから、「自立した心」が育まれてくるのです。

“寛厳よろしきを得る”とは、厳しさ優しさ、叱ることとほめることを半々に表すことではありません。厳しさはなるべく少ないほうがよいのです。

「ああしなさい」「こうしてはいけない」としつけること以上に大切なこと、それは、親自身が一つの人生観・社会観をしっかりとつことです。

道義や道徳など、人間として大切なことをしっかり教え、その上で自由や自主性を尊重するようにしたいものです。

一年のはじめなので、“子育ての名人”と呼ばれた松下幸之助さんの名言を掲載しました。子育てのヒントにしてみてください。